
バカとテストと問題児

エンゼル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと問題児

【Nコード】

N5532BA

【作者名】

エンゼル

【あらすじ】

無茶苦茶な高校生活を送ろうとする月影雅と、矛盾暴走少女伊集院沙耶に、冗談大好きな美人男子凜堂紫音はFクラスに入る。この3人、高校生活を無茶苦茶にするために様々な問題を巻き起こしていく問題児！明久や雄二はそれに巻き込まれるが……！！

第1問目（前書き）

キャラ設定って難しいなあ……………。1回それで作品がボツになったので、気を付けていきます。

本編どうぞ！

第1問目

「アホか！？なにがなんでもAクラスに入るって言ってただろ！？」

「無理言わないでよ！！2人を見捨ててAクラスに行くなんて嫌だもん！！」

「ごめん……………。私の所為だ。私が倒れなきゃ2人とも！！」

ああ！もう！！話を聞いてわかるように俺らは、結果を見る前にどこのクラスなのかわかってしまった。振り分け試験で1人が倒れて俺が助けて途中退席をしたのはいい。もう1人は俺らのためにテストを放棄したのだ。

「じゃあ、こうすればいいじゃん！！アタシ達が試召戦争でAクラスに勝つってことよ！！」

「……………私はそれに賛成ですね」

「最初から俺はそのつもりだったけどよ」

俺、月影雅と強気な女の子、伊集院沙耶に大人しい男の子、凜堂紫音のFクラスの生活が始まった。

「月影、伊集院、凜堂、登校時間ギリギリだぞ？」

「よう！鉄人」

「おはよう！西村先生」

「おはようございます。西村先生」

「月影、いい加減に『西村先生』と呼べ」

この人は鉄人（西村先生）。鉄人は明久や坂本に目をつけていてなまあ、どちらも問題児と言われているけど、今から俺も仲間入りだ。何故なら俺も問題児だからだ！！

「結果は知ってると思うが……………」

「まあ、仕方ねえよ」

俺は沙耶と紫音のためにAクラスに入る努力をした。沙耶は危なかったが、振り分け試験のテスト前はAクラスに入れる学力となった。

「月影はいいとして、凜堂？お前は大丈夫なのか？」

「私も運が悪いです。あんな時に病が……………」

「早く行こっ！！もう始まっちゃうよ！！」

「マジだ！？おい、行くぞ！！」

どこのクラスだって楽しいさ。この2人がいれば無茶苦茶なことが起きるんだからな！！基本的に俺が問題を起こすんだけどよ！！

「わあ〜！ここがAクラスなんだ！？凄いな〜」

「急ごうって言ったの沙耶だよな！？」

沙耶はAクラスに見入っている。確かにリクライニングシートとかは普通の高校じゃないよな。

「紫音行くぞ？遅刻するとどうなるか知らないからな」

「雅。置いていくの？」
「いつものことだ」

沙耶を置いていったのはいい。だけど旧校舎側に来ると足取りが重くなってきた。何でだろう？……床がギシギシ言ってるんだぞ？蜘蛛の巣張ってるんだぞ？2・Fの教室が……あきらかに俺が暴れたら壊れるぞ？

「……急に目眩が」

「逃げないでください、私だって現実逃避がしたいです」

設備は最低でもメンバーは凄くいいと思うんだ。明久もいるし、坂本も多分いるし。うん！大丈夫だ！！ドアを開けて入るぜ！

「遅れました」

「早く座れ、このウジ虫野郎」

「坂本、5秒で地獄に送ってやる」

ん？と坂本がこっちを見る。悪いが後悔する時間も与えさせねえよ！！

「あ！スマ「くたばれ！！」「ぐはああ！！」

よし！ゴミ掃除を完了した。ハッハッハ！坂本！目覚めたらそこは地獄だぜえ！！

「む？月影と紫音ではないか？お主らはAクラスかと思ったのじゃが？」

「紫音の……あれな」

「……そうじゃったか」

木下と紫音は仲がいいんだ。何故かって？それは……………、

「おお！あの娘もレベルが高いぞ！？」

「美人だ！！来たぜ俺に春が！！」

……………どっちもそんじょそらの女子より美人だからだ。俺は慣れたが小学生の頃に男子トイレにいた時は驚いたぜ……………。しかも紫音の手を握りトイレから出ようとしたりとところを他の奴らに見られて変態扱いされそうになっただぜ……………。

「雅！置いてかないでよっ！！！」

「じゃあ、早く来いし。そのうち俺らの物になるんだ」

「早く座れ、このウジ虫野郎」

坂本が再びウジ虫野郎と言った。つーか復活してたのかよ？頭に大打撃を与えたから1週間は目覚めないと思ったが急所を外したか。

「あれ？雅！？どうしてFクラスに！？」

「途中退席だよ。さっきからこれしか言ってるねえな」

明久とは高1で仲良くなつてからは、下で呼び合う仲なんだ。坂本と木下はその時にちょっと知り合っただけで深いかわり合いはなかった。

「席についてもらえますか？HRを始めますので」

先生が来た。福原先生だったかな？この人は凄い面白い人なんだよ！！テストで珍回答するといいつツッコミをしてくるんだぜ！？

「えー、おはようございます。2年F組担任の福原慎です。よろしくお願いします」

黒板の方を向いたら、何かに気づきこつちを向いた。チヨークがないから書けないよね。

「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね。廊下側の人からお願いします」

最初は木下か。男子の目がキラキラと輝いているんだけど、気のせいだよな？同性愛者が身近にいるわけがない。

「木下秀吉じゃ。演劇部に所属してある」

木下は演劇が得意で声マネが上手い。これは何かに使えるんじゃないか！？例えば坂本をはめる時に……………。

「と、いうわけじゃ。今年1年よろしく頼むぞい」

軽く微笑む木下。明久、何故お前も目が輝いているんだ！？いつの間に関同性愛者が増えちまったんだ！？

「……………土屋康太」

つと、次は土屋か？何かと紫音の写真を撮っているんだけど、何に使われているのかは謎だ。……………その写真が見知らぬ男子数人が持っていたのも謎だ。

「……………です。海外育ちで、日本語は会話はできるけど読み書きが苦

手です」

次は女子か？こいつは知らないな。というか沙耶を抜かせば女子はこいつだけだよな？……………Fクラスって男子多すぎだろ。

「趣味は吉井明久を殴ることです」

……………明久に春が来るのは遠そうだぜ。まあ、一種の愛情表現なのかもな。さて次は俺か……………。無難にやろうと思った。が、坂本をぶつ飛ばした所為でもう目立ったからなあ……………。

「よっと」

教壇の前に出て、俺は言う。

「月影雅！鉄人に目をつけられている1人だ！楽しい学園生活を目標に暴れたいと思う！よろしく！！」

こんなもんだらうか？これで俺は楽しさ目当てで暴れてる奴と認識されるはず。

「凜堂紫音。私には病を抱えて倒れることがありますので、迷惑をかけます」

……………紫音の病。それはナルコレプシー。眠り病ってやつだ。昔の精神的ダメージが今も続いているらしい。倒れると言っても寝ているだけだから特に心配は……………、

「でも雅が助けしてくれるから……………迷惑をかけないように……………します」

「「「月影を殺れ!!」」」

と思ったが、俺の方に心配があったようだ。ていうか、何で紫音は頬を赤く染めているんだよ!?

「伊集院沙耶!アタシは月影雅の幼なじみだ!!よろしく!」

おかしい。普通の自己紹介なのに、殺意が増したんだけど!?

「コホン。えーっと、吉井明久です。気軽に『ダーリン』って呼んで下さいね」

『ダアアーリーーン!!』

………気持ち悪い。吐いていいかな?男子約40人がダーリンって叫ぶクラスは世界中探してもここだけだ。

「失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願い致します」

明久の具合が悪そうだ。きっとダーリンって叫ばなかった人はみんな、不快になってるだろう。

「明久、ドンマイ」

「雅………ありがとう」

親指をぐっと立てた。

「あの、遅れて、すいません………」
『えっ?』

あれは姫路瑞希!?!姫路はAクラス確実と言われているやつだろ!

？……………途中退席……………だろうか？

「丁度よかったです。今自己紹介をしているところなので姫路さん
もお願いします」

「は、はい！あの、姫路瑞希といいます。よろしくお願いします…
…」

背中まで届いてるピンク色の髪がふわふわ動く。明久や坂本も驚い
ているな。でも試召戦争は凄く有利になるぜ！！

「姫路、お前も途中退席か？」

「あれ？月影君？高熱を出してしまつて……………つて、月影君も途中
退席ですか？」

「ああ。紫音を保健室に運んだからな」

おかしい、殺意が増したんだけど。押さえられなくなって武器を持
っている人もいるんだけど！？

「で、ではつ、1年間よろしくお願いしますっ！」

自己紹介を終えて明久と坂本の隣の席に行く。姫路とは1年の頃に
何回か話す機会があつたからな。

「沙耶ちゃん？沙耶ちゃんもFクラスなんですか！？」

「うん！よろしく！！瑞希！」

「雅、凜堂さんを保健室に運んだことを詳しく聞きたい」

「紫音が倒れたから隣の席にいた俺が保健室まで……………」

「私は保健室で雅と……………」

「早まるな明久。紫音は冗談が得意なんだ」

紫音は俺をよく冗談で厄介なことに巻き起こむんだよな。今だって殺意がほぼ全員から受信してるんだぜ!?

「私は雅にベッドに寝かされて……………」

「いや、病人をベッドに寝かせるのは当然だぞ?」

「そしたら雅が私に覆いかぶさって……………」

「そいつは違う!!捏造するなよ!?寝かせただけじゃないか!!」

明久?何で君も俺に殺意を向けるんだい?そしてそのカッターは袖から出さなかつたかい?

「雅…………私の口からは喋れないよう……………」

「…………月影を殺れ!!」

「さらばだつ!!」

覚えてろよ!!紫音!!一日目から飛ばしすぎだつてば!!確かに俺はこんな無茶苦茶な日常を望んだけどよ!!

「紫音、来世でまた楽しくやろう」
「お別れだね、雅」

淡々と言う紫音。俺は仮面を被った集団に囲まれているんだ。考え

てみてほしい。少なくとも無茶苦茶な高校生活では拘束され命の危険を感じる状況はないと思うんだが。……………紫音は俺をもつ見捨ててるし。

「雅……………来世でも私をベッドに……………運んでくれる？」

……………見捨てるどころか、殺す気満々だったようだ。紫音、お前との10年間は何だったんだ。

「さて、それでは自己紹介の続きをお願いします」

よっしゃ！！福原先生が来てみんなが渋々戻っていく。これで自由の身だぜ！！

「……………紫音。俺が来世に転生される前に解いてくれ」

「うん。わかったよ」

明久と坂本は席をさっきまで外していたし、ガールズトークで盛り上がってるし。

「坂本君、キミが自己紹介最後の1人ですよ」

「了解」

坂本が代表だったのか？坂本は頭が切れるが、Fクラスの代表になるように点数調整をするのは至難の技だ。俺ら3人と姫路のイレギユラーは予測できないはずだし……………。

「Fクラス代表の坂本雄二だ。俺のことは代表でも坂本でも、好きなように呼んでくれ」

ゴリラ？オランウータン？チンパンジーは鉄人の特許だから、もう少し深い猿人類で……、

「さて、皆に1つ聞きたい」

俺の考えを遮り、坂本がクラス全員に問い掛けた。

かび臭い教室。

古く汚れた座布団。

薄汚れた卓袱台。

「Aクラスは冷暖房完備の上、座席はリクライニングシートらしいが」

坂本は一呼吸おいて、静かに告げる。

「不満はないか？」

『『『大ありじゃあつー！』『』『』』

そうだ！俺だってこんな環境の悪いところに沙耶や紫音に居させたら体調が悪くなるかもしれない。各々、不満を訴えている。

「みんなの意見はもつともだ。そこで」

言うことはわかった。ここまできたら1つしかない。

「これは代表としての提案だが」

初日から暴れられるかな？坂本ならやりかねないけどな。2学年になつてやつとできる…………、

「 FクラスはAクラスに『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う」

試験召喚戦争。俺の無茶苦茶な高校生活を送るための最高のイベントだ。このFクラスはみんなが想像してる以上に凶悪だぜ？

第1問目（後書き）

雅「後書きコーナー！！」

明久「後書きを自由に会話で潰すこの企画！！」

雄二「いきなりベッドシーンに入ったことについて」

雅「死ぬ。坂本」

紫音「ボツになりましたが、雅は服も脱がせたのですよ？」

秀吉「警察〜警察〜」

雅「何言つてやがる？そんなことしねえよ」

雄二「変態め……………」

紫音「上半身は何もないので腕で大事なところを隠しました」

康太「……………（ブシャアアア！！）」

明久「ムツツリーニ！？大変だ！！意識がなくなってきた！！」

雅「紫音。もうやめろ」

紫音「下はまた次ですかね？」

美波、瑞希「下も!?」

沙耶「テストを放棄しなきゃよかったな……」

雅「1話目から酷い扱いだぜ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5532ba/>

バカとテストと問題児

2012年1月15日01時48分発行